

授業科目 臨床薬理学

【担当教員名】 井上 弘樹		対象学年	4	対象学科	情報
		開講時期	前期	必修選択	選択
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	○	○	
【概要】 薬理作用の把握と薬に関する基本的な考え方を理解し、薬理作用及び体内動態、薬効に影響を及ぼす要因について学ぶ。					
【学習目標】 1. 主要な薬物の薬理作用を理解することができる。 2. 薬物の体内動態の基本を理解することができる。 3. 薬剤安全性情報の収集と活用のしかたについて、説明することができる。 4. その他、創薬探索研究の流れと市販後薬剤の薬効評価について概要を説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	医薬品と法律				
2	薬効のメカニズム				
3	薬物動態				
4	薬物の相互作用と副作用				
5	中枢神経系に作用する薬物				
6	末梢神経系に作用する薬物				
7	心臓・血管に作用する薬物				
8	代謝に作用する薬物				
9	抗感染薬				
10	抗がん薬、免疫治療薬				
11	抗アレルギー薬、抗炎症薬				
12	呼吸器に作用する薬物				
13	血液に作用する薬物				
14	その他の薬物				
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		よくわかる専門基礎講座 薬理学	今井昭一	金原出版	2006・2,200円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 筆記試験		【履修上の留意点】 必要な場合、教科書以外にスライドとハンドアウトなどを適宜用いる。 本科目のような分野では、知識を正確に用いることが求められる。そのためには日々学習を積み重ねることが必須であることをよく理解した上で、受講すること。 受講時に他の学生の学習の妨げとなる態度を取る者については、退室を命じることがある。 シラバスの各回の内容については変更になる可能性があるため、各自掲示板などをみておくこと。			